



第 378 号

令和4年6月9日発行

- 巻 頭 言
- 北海道中学校長会総会研修会
- 役員・理事一覧
- 運営方針及び活動の重点
- 地区だより・論文
- さりながら・文芸
- 事務局日誌



「連携・協働し 新たな時代を担う 道中」へ

北海道中学校長会 会長 野 崎 均

今年度本会のキャッチフレーズを「連携・協働し 新たな時代を担う 道中」としました。

御承知のように、わが国では 21 世紀にふさわしい持続可能な社会を構築するための動きが始まっています。その中で、学校には「社会に開かれた教育課程」、「主体的・対話的で深い学びの実現」、「カリキュラム・マネジメントの確立」などが強く求められています。また GIGA スクール構想により、子供たちを誰一人取り残すことなく、一人一人に個別最適な学びや協働的な学びを実現するなど、「令和の日本型学校教育」の構築も求められています。

そうした中、私たち校長には、今後更に加速することが予測される教育改革の流れをつかみ、自らの責任において時代にふさわしい教育を推進し、教育の真価を示さなければなりません。その責任を私たち自身がしっかりと引き受ける、つまり「担う」ことが重要な使命と考えます。そうした思いを「新たな時代を担う」という言葉に込めました。

またその使命を果たすためには、「連携と協働」を欠かすことができません。地区別教育研究会を中心に全道各地区の校長先生方と、第 73 回全日本中学校長会研究協議会北海道（札幌）大会を通して全国の校長先生方とし

っかりと学び合うと同時に、他の校種や教育関係機関、各種団体の皆様、保護者や地域の皆様と幅広くつながり、新しい時代に求められる学校づくり、環境づくりに取り組む必要があります。私たち一人一人がそれぞれの取組の中で様々な連携・協働を生み出し、教育改革の輪を広げ、新たな時代を担う力を高め合っていきましょう！

皆様の力をお借りして、全日中新教育ビジョンを踏まえた運営方針や活動の重点を確実に推進するとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止や、昨年度研修部が報告した調査結果を生かした学習指導要領の着実な定着はもちろん、部活動の地域移行等の動きも注視しながらの学校における働き方改革、今年度対策部が行う調査結果を生かした GIGA スクール構想の一層の推進を力強く進めてまいります。

冒険家の三浦雄一郎氏は「リーダーは上機嫌で希望の旗印を揚げ続けよ」と話しています。会員の皆様方に、今年度本会のキャッチフレーズである「連携・協働し 新たな時代を担う 道中」という思いを常に心におき、希望の旗印を 565 本 1 年間揚げ続けていただくことで、道民の皆様への負託に応えていきたいと考えます。御理解と御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

北海道中学校長会
第95回
総会・研修会

第95回北海道中学校長会総会・研修会が、4月28日にホテルライフォート札幌を会場に開催された。全道から代議員38人と地区理事20人、その他役員来賓等37人参加した。会長挨拶、感謝状贈呈に続き、北海道教育委員会教育長様等が祝辞を述べられた。北海道教育庁学校教育局指導担当局長様の講話後、議事に入り令和4年度運営方針及び活動重点案、各部業務計画案、会計予算案、第73回全日中研北海道（札幌）大会等に係る審議及び承認後、総会宣言・決議を採択した。また、同日第1回副会長研修会・各専門部研修会も開催された。

第95回北海道中学校長会総会・研修会によせて

メッセージ

第95回北海道中学校長会総会の開催を心からお喜び申し上げますとともに、中学校長会の皆様には、日頃から、本道の学校教育の充実と発展に多大なるご尽力をいただいていることに、厚くお礼申し上げます。

人口減少・少子高齢化の進行やグローバル化の進展、さらには脱炭素化やデジタル化といった社会変革の動きなど、今、私たちは時代の転換期を迎えています。こうした様々な変化に対応した持続可能な社会の創り手となる人材を育成することがますます重要となる中、将来を担う子どもたちの可能性を引き出す教育の推進が一層求められています。

特に、中学校の3年間は、生徒の皆さんの興味や関心、適性など多様化が進む重要な時期であり、道としても、生徒の皆さんの学びを保障するため、専門スタッフを配置するとともに、分散授業・オンライン学習など、ICTのさらなる活用による新しい時代の学びを支える環境整備に取り組んでまいります。

皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症の流行が長期にわたり、教育活動に様々な影響が生じる中、感染リスクを抑えるための対策はもとより、子どもたちの命と健康、そして「学び」を守るため、多大なご尽力をいただいていることに対し、深く敬意を表しますとともに、引き続き、未来を担う子どもたちの健やかな成長に向け、広い見識と指導力を発揮いただきますようお願い申し上げます。

結びに、北海道注が校長会のますますのご発展、並びに本日お集りの皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます、お祝いのメッセージといたします。

令和4年4月28日

北海道知事 鈴木直道

宣言

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは、自然災害や新たな感染症の発生、グローバル化の進展や急速な技術革新など社会状況が変化中、新しい時代の中学校教育の課題に対応し、教育基本法をはじめとする教育関連法規や学習指導要領の趣旨を踏まえ、自らの責任において全日中新教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、教育の真価を示さなければならない。

また、本道における学校教育には、自然豊かなふるさとに誇りを持ち、将来への夢や目標を実現するために、たくましく生き抜いていく力を身に付けさせる教育の推進が求められている。

北海道中学校長会は、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」の推進と当面する諸課題の解決に努め、新たな中学校教育の創造を目指し、道民の負託に応えることを宣言する。

決議

第95回総会・研修会にあたり、以下の事項を決議し、その実現を期する。

- 一、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」とともに「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進する。
- 一、全日中新教育ビジョンを踏まえ、学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな体の育成を推進する。
- 一、現在の学校教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一、創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える教育を実現するため、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。
- 一、「教科書無償給与制度」「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持を要請し、教育水準の維持向上を期する。
- 一、学校が担うべき業務の明確化・適正化をはじめ、学校の組織運営体制の見直し、教職員の意識改革等により「学校における働き方改革」を推進し、新しい時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮する。
- 一、東日本大震災や北海道胆振東部地震をはじめ近年多発する災害等により被害を受けた地域の復興を期し、教育活動の充実に向けた支援と全道各地区・各学校における防災教育・安全教育の充実を期する。

令和4年4月28日

第95回 北海道中学校長会 総会・研修会

令和4年度 北海道中学校長会 役員及び理事

役職	氏名	市町村	学校
会長	野崎 均	登別	緑陽
副会長	1プロ 藪 智樹	余市	東
	2プロ 藤田 智哉	留萌	留萌
	3プロ 玉置 英樹	厚沢部	厚沢部
	4プロ 野崎 均	登別	緑陽
	5プロ 本川 敬一	釧路	幣舞
	6プロ 越田 公美	札幌	東月寒
事務局次長	笹川 恒春	札幌	北栄
事務局次長	三浦 英悟	札幌	琴似
事務局次長	森田 聖吾	旭川	忠和
会計理事	村上 俊一	小樽	向陽
運営委員	1プロ 岡本 清豪	小樽	北陵
	2プロ 田中 幸治	小平	小平
	3プロ 長谷川 秀雄	函館	桔梗
	4プロ 盛永 明寿	浦河	浦河第一
	5プロ 水野 秀哲	釧路	富原
	6プロ 新津 智哉	札幌	西陵
地区理事	石狩 畠山 学	江別	江別第三
	札幌市 秀島 起也	札幌	中央
	後志 柴田 真琴	岩内	岩内第一
	小樽市 伊藤 仁弥	小樽	望洋台
	上川 袋田 佳奈恵	剣淵	剣淵
	旭川市 工藤 亘	旭川	中央
	宗谷 細谷 隆志	浜頓別	浜頓別
留萌 亀田 寛人	増毛	増毛	

役職	氏名	市町村	学校
地区理事	桧山 福井 順一	江差	江差
	渡島 石川 宏司	森	森
	函館市 佐藤 雅博	函館	巴
	空知 伊藤 聰	岩見沢	栗沢
	胆振 瀧澤 義守	洞爺湖	虻田
	日高 小嶋 範彦	新ひだか	静内第三
	十勝 橋本 靖宏	幕別	幕別
	帯広市 藤崎 禎人	帯広	帯広第二
	釧路 佐藤 毅	釧路	遠矢
	釧路市 松岡 伸之	釧路	景雲
	根室 齋藤 征志	根室	光洋
	オホーツク 緒方 隆人	北見	北
経営部	副部長 小森 享	北広島	西部
	幹事 前田 真志	恵庭	柏陽
	幹事 中村 和男	共和	共和
研修部	副部長 吉本 将樹	札幌	稲穂
	幹事 田丸 明史	札幌	手稲西
	幹事 高橋 正幸	札幌	平岡
対策部	副部長 河村 克也	岩見沢	東光
	幹事 坂本 征人	深川	一已
	幹事 小泉 寧	南幌	南幌
情報部	副部長 山田 誠一	安平	早来
	幹事 鏡 武志	苫小牧	青翔
	幹事 高橋 泰明	室蘭	東明

第95回 北海道中学校長会総会

感謝状贈呈者芳名

御指導ありがとうございました

【退会者】

役職	氏名	学校名	経歴
会長	三浦 利章	千歳市立千歳中学校	会長(3)、事務局次長(2) 地区理事・経営部長(元) 経営副部長(29.30)、経営部幹事(28)
副会長	木村 佳子	札幌市立中央中学校	副会長(3)、事務局次長(元) 研修副部長(30)、研修部幹事(29) 情報部幹事(28)、対策部幹事(27)
副会長	檜山 聡	七飯町立大沼岳陽中学校	副会長(3)、運営委員(29.2)
運営委員	太田 智子	美瑛市立美瑛中学校	運営委員(3.元)、副会長(30) 道中研空知大会実行委員長(元)
運営委員	喜多 敦	幕別町立幕別中学校	運営委員(3)、副会長(2)
地区理事	三浦 崇史	江別市立大麻東中学校	地区理事・経営部長(2.3) 経営副部長(元)、経営部幹事(29.30)
地区理事	木村 雅彦	函館市立五稜郭中学校	地区理事(2.3)
地区理事	林 欽一	旭川市立牛居中学校	地区理事(3)
地区理事	伊藤 晃一	釧路市立共栄中学校	地区理事(3)

役職	氏名	学校名	経歴
幹事	立花 和実	伊達市立伊達中学校	情報部幹事(30~3)
元副会長	竹森 茂雄	当麻町立当麻中学校	副会長(2)
元運営委員	神成 浩	新ひだか町立静内中学校	運営委員(29) 地区理事(28.2)
元地区理事	松田 拓美	新冠町立新冠中学校	地区理事(29~元) 情報部幹事(30.元)
元地区理事	長尾 真	留萌市立留萌中学校	地区理事(2)
元地区理事	中村 邦彦	札幌市立向陵中学校	地区理事(元)
元幹事	井村 信	岩見沢市立豊中学校	対策部幹事(元) 対策副部長(2)
元幹事	庄司 直樹	岩見沢市立東光中学校	対策部幹事(29.30)
元幹事	小池 千秋	札幌市立平岡中学校	経営部幹事(27)

※役職名については、直近に担当した役職の順に作成しました。

〈第1号議案〉 令和4年度 運営方針及び活動の重点

激動する国際社会において、我が国では、21世紀にふさわしい、持続可能な社会の仕組みを構築するため、行財政改革、規制緩和、地方分権などの動きが進行している。

教育界では、教育基本法及び教育関連法規の改正、教育再生実行会議の諸提案、教育振興基本計画策定など一連の教育改革が行われ、学習指導要領の改訂により、「社会に開かれた教育課程」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現、「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められている。また、国が進めるGIGAスクール構想により、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、一人一人に個別最適な学びや、協働的な学びを実現するなど、新しい時代の学校教育である「令和の日本型学校教育」の構築も求められている。

そのため、私たち中学校長は、学校教育の課題を踏まえ、人間尊重の精神に徹し、子供たちの「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育む教育とともに、生徒・保護者・地域の信頼と期待に応えるため、Society5.0時代の到来を見据えた人材育成や多様性を重視した教育など、新しい時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮し、学校からの教育改革を推進しなくてはならない。あわせて、本来、学校が担うべき業務の明確化・適正化をはじめ、学校の組織運営体制の見直し、教職員の意識改革等により、「学校における働き方改革」の推進も図る必要がある。また、東日本大震災の風化防止に努めるとともに、北海道胆振東部地震をはじめ、近年、災害等が多発していることから、今後起こりうる災害に対し、能動的に対応できる生徒を育成するため、防災教育・安全教育の更なる充実を図る必要がある。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化することが見込まれる中、教育活動を継続していくために必要な感染症対策と、生徒の健やかな学びの保障を両立させなくてはならない。

さらに、平成30年3月に策定された「北海道教育推進計画」の基本理念を受け、「教育の質の向上」を目指した本道の中学校教育を推進していく必要がある。

以上の認識を立ち、北海道中学校長会は、校長としての主体性と指導性をもち、会員相互の連携のもと、「全日中新教育ビジョン 学校からの教育改革(令和2年5月)」の内容を踏まえながら、道民の負託に応え、全道の中学校が抱える教育課題の解決に向けて、全日本中学校長会綱領及び、本会会則により、次の運営方針並びに活動の重点等に基づき、本会を運営していく。

1 運営方針

- (1) 本会の組織と機能を生かし、本会の目的である「中学校長の職能の向上と、北海道の中学校教育の振興」の達成に向け、校長相互の協力や信頼関係を一層深めるとともに、会の総力を結集して活動の充実と諸問題の解決に努める。
- (2) 道教委をはじめ、全日中、四種校長会及び教頭会等の教育関係諸機関や、PTAをはじめとした諸団体との連携を深め、国及び道・市町村教委の動向を踏まえて適切な対応に努める。
- (3) 校長としての学校経営力の向上を図り、道民の負託に応える中学校教育の創造に努める。

2 活動の重点

(1) 校長会の組織と機能を充実し、活動の活性化を図る。

- ①「オール北海道」として一体となった活動の推進
- ②全日中新教育ビジョンを踏まえた学校からの教育改革の推進
- ③教育改革を進めるための具体的な活動に関する適切且つ迅速な対応と情報の発信
- ④組織体制及び運営の継続的な見直しと改善
- ⑤教育関係諸機関、道小学校長会等の諸団体と連携した活動の推進
- ⑥「第73回全日本中学校長会研究協議会 北海道(札幌)大会」の開催

(2) 確かな学力の定着、豊かな心と健やかな体を育むための

「カリキュラム・マネジメント」に努める。

- ①全日中新教育ビジョンが目指す「確かな学力」、「道徳教育」、「キャリア教育」、「健康教育・安全教育」、「いじめ防止」等の充実を図る特色ある教育課程の編成・実施
- ②基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、それらを活用する能力及び学びに向かう力を育てる指導・評価の工夫・改善
- ③個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ④豊かな心と健やかな体を育てる道徳教育・健康教育・体験活動の推進
- ⑤地域社会の人的・物的教育資源の効果的活用を通じた「カリキュラム・マネジメント」の確立、社会に開かれた教育課程の推進
- ⑥スポーツ教育・芸術教育の推進
- ⑦不登校の未然防止や、不登校生徒への支援の充実と生徒指導体制の強化
- ⑧コロナ禍においても学びを保障するための活動の推進

(3) 学校の自主性・自律性の確立と学校経営の改善に努め、家庭や地域社会に信頼される学校づくりを推進する。

- ①学校評価の効果的な運用と教育課程の改善
- ②教職員の資質の向上を図る研修の促進と内容の充実
- ③家庭・地域社会との連携・協働による教育活動の充実

(4) 多様な教育活動を推進するための教育諸条件の整備・充実を期する。

- ①新たな教職員定数改善計画策定による教育の質的向上と、義務標準法の一部改正による35人以下学級の中学校までの早期拡大
- ②新学習指導要領に基づいた教育活動を展開するための施設・設備の整備・充実
- ③「学校における働き方改革」を踏まえた部活動改革の推進に向けた、関係諸団体との連携
- ④人的支援も含め、学習指導や生徒指導に専念できる環境の構築に向けた働き方改革の推進
- ⑤GIGAスクール構想推進に向けた環境整備及びサポート体制の充実
- ⑥With コロナ、ポストコロナを見通した適切な対策や条件整備の充実
- ⑦スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤーの配置の拡充
- ⑧特別支援教育の円滑な推進に向けた条件整備
- ⑨学校段階間の連携・接続の推進
- ⑩学校職員評価制度における教職員の意欲を高める効果的な活用
- ⑪高等学校入学者選抜の改善及び、公立高校適正配置に対する適切な対応
- ⑫へき地・複式校、小中併置校、小規模校における教育推進に係る諸条件の更なる改善・充実
- ⑬校長の人事具申権の尊重と人事異動要綱に基づく適正な配置や見直し
- ⑭校長・教頭・主幹教諭等候補者の選考方法の検討・改善と人材確保に向けた条件整備
- ⑮広域人事、管理職の管外交流の推進と条件整備

(5) 教職員の服務規律の徹底、職責に見合った待遇改善を期する。

- ①教職員の服務規律の遵守と法規法令に基づいた適切な学校運営
- ②不祥事の根絶に向け、教職員の意識改革や自覚を促す指導の徹底
- ③「人材確保法」及び「義務教育費国庫負担制度」の堅持
- ④給与体系の改善と校長・教頭の待遇改善
- ⑤公務員定年制の、管理監督職の特例措置

〈第2号議案〉 令和4年度 各部業務計画案

(1) 経営部

1 方針

本会の運営方針・活動の重点を受け、学校経営に法的根拠を据え、教育活動の充実に努める。

- (1) 教育制度、関係諸法規の情報収集と情報の提供、資料化に努める。
- (2) 学校経営上の諸問題や管理運営に関する法制研究を行い、その解決に資する。
- (3) 諸会議等を通じ、会員相互・地区との情報交換を図り、組織の連携・充実・発展に努める。

2 業務計画

(1) 諸会議の開催

- ① 経営部研修会
 - 第1回経営部研修会 4月28日(木)
方針、業務推進計画の検討
 - 第2回経営部研修会 2月10日(金)
年度反省、次年度への課題・展望とまとめ
- ② 小中合同学習会 7月15日(金)
質問・要望に対する学習会、道小と連携

(2) 法制研修会、地区別教育経営研究会の開催（今年度は道小が担当）

- ① 法制研修会の開催について
 - ・単独開催の期間は、8月までを原則とするが、遅くとも10月までには完了する。
 - ・講師・助言者は、各地区で確保する。
 - ・法制研修会の会場費は、各教育局に請求する。(地教委との事前確認が必要)
 - ・道中事務局からの役員の派遣は、原則として行わない。
- ② 地区別教育経営研究会の開催について
 - ・開催期間は、原則として8～10月の3か月間とする。ただし、9月下旬又は10月上旬の木金曜日は学校

行事と重なるためできる限り避け、夏季休業中の期間が望ましい。

- ・法制研修会と合同開催の場合、開催計画書(様式1)に法制研修の項目を入れて提出する。
- ・地区別教育経営研究会には、合同開催であっても、道中事務局より、役員を派遣することを原則とする。
- ・派遣役員の任は、各地区へのお礼や激励及び情勢報告や質問等に対する回答が主であり、講師を目的とした派遣ではない。
- ・事前に各地区から「質問事項」(様式2)を集約し、それに対する調査研究を行い、回答をする。
- ・事前に派遣される担当幹事と地区担当者が綿密に説明時間、質疑の時間等を打ち合わせ、各地区のニーズに合った研究会になるようにする。
- ・会場費については、日本教育公務員弘済会北海道支部に請求すると、運営費として補助される。ただし、事前の申請が必要となる。

(3) 法制研究集録（今年度は道中が担当）及び学校経営の資料（今年度は道小が担当）の編集

- ・法制研究集録第53集は道中が担当し、HPに2月掲載予定。
- ・学校経営の資料は道小が担当し、7月中旬に各地区校長会へ送付予定。
- ・一昨年度より法制研究集録はHP掲載とし、学校経営の資料のみ冊子としているが、予算の関係上、前年度よりページ数を増やさないよう工夫する。

(4) 関係諸団体との連携（日本教育会他）

(2) 研修部

1 方針

基本主題『新たな時代を切り拓き よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育』のもと、道中研究大会において研究交流を深めるとともに、各地区における研究を基盤とした研究活動の充実に努め、校長としての識見や指導力の向上を図る。「全日中新教育ビジョン」の内容を踏まえた研究活動を更に推進し、学校経営の充実に寄与する。

教育課程の編成・実施に資する調査研究を推進し、今日的課題の解明に努め、学校教育の推進と向上に役立てる。他部との連携を図り、業務の円滑な推進に努める。

- (1) 第73回全日本中学校長会研究協議会北海道(札幌)大会の円滑な運営と研究内容の充実に資するため、北海道・札幌市中学校長会との連携を密にする。
- (2) 令和4年度の研究を総括し、令和5年度「研究の手引き」の作成作業を行う。
- (3) 教育課程に関する情報収集に努め、中学校教育における今日的課題を明らかにし、問題点の解明に寄与する。

2 業務計画

(1) 諸会議の開催

- ① 第1回研修部研修会 4月28日(木)
 - ・研究方針、業務推進計画及び業務推進について
 - ・第73回全日中研北海道(札幌)大会について
 - ・令和5年度「研究の手引き」の作成について
 - ・教育課程に関する調査について(令和5年度の調査実施に向けた調査内容・項目の検討に向けて)
 - ・各地区研究推進状況や令和4年度の研究計画について
- ② 道中研究大会合同研修会
(提案者・司会者等打ち合わせ会) 7月14日(木)
- ③ 道小道中合同研修会(学習会) 7月15日(金)
- ④ 第2回研修部研修会 2月10日(金)
 - ・年度末反省、次年度への課題の検討と展望・まとめについて
 - ・令和5年度以降の研究推進について
 - ・令和5年度第64回北海道中学校長会研究大会小樽大会について

- ・令和5年度「研究の手引き」について
- ・教育課程に関する調査について(令和5年度の調査実施に向けた調査内容・項目の決定)
- ・各地区研究推進の交流について

(2) 研究活動の推進

- ① 第73回全日中研北海道(札幌)大会の円滑な運営と研究内容の充実に資するため、当該実行委員会との連絡・情報交流を積極的に行う。また、全日中研分科会提言に向けて、研修部として担当地区や発表者へのサポートを早めに行っていく。
- ② 研究資料及び情報の提供、研究校の紹介、その他、研究活動の推進
- ③ 各地区研究推進の状況や各地区研究成果の交流を推進
- ④ 教育課程に関する調査の調査内容・項目の決定

(3) 関係機関との連携・調査、その他

- ① 文部科学省や北海道教育委員会、市町村教育委員会はじめ、全日中等の関係機関との連携や調査依頼について、各地区研修部担当者の協力のもと推進する。
- ② 第73回全日中研北海道(札幌)大会の成功に向け、実行委員会との連携を密にし、研修部をあげて積極的にサポートを行う。
- ③ 教育関係団体との連携・調整を推進する。

(3)対策部**1 方針**

本会の「運営方針及び活動の重点」を受け、学校運営上の諸問題について調査研究を推進し、学校経営の向上に役立てる。また、会員の職責に見合う待遇改善に向けて業務を推進する。

- | | | |
|--|----------|-------------------------|
| (1) 生徒指導等に関する情報収集、調査研究から情報提供に努める。 | 6月17日(金) | 各地区における調査を対策部に報告 |
| (2) 会員の身分確立や福利厚生、給与等の待遇改善に関する課題解決に向け、関係機関との連携強化に努める。 | 7月29日(金) | 地区レポート送付(地区対策担当→道中対策幹事) |
| (3) その他、緊急性のある課題や各種調査、情報に関することへの対応に努める。 | 8月26日(金) | 調査報告書原案作成 |
| | 9月20日(火) | 調査報告書完成 |
| | 9月30日(金) | 調査報告書の会員への配布 |

2 業務計画**(1) 諸会議の開催****①対策部研修会**

- 第1回対策部研修会 4月28日(木)
活動方針、業務推進計画の検討
- 第2回対策部研修会 2月10日(金)
活動反省、次年度の展望とまとめ

- ②小中合同事務局研修会・学習会 7月15日(金)
道小との連絡・調整・情報交換

(2) 各種調査の推進**①調査報告書の発行**

- 「学びの保障及びUGIGAスクール構想の取組と現状等に関する調査」の実施
- 4月28日(木) 令和4年度対策部研修会 令和4年度調査内容の確認
- 4月29日(金) 第2回理事研修会 各地区に依頼
- 5月2日(月) 地区対策担当者に調査依頼及びデータの送信
- 5月31日(火) 各地区における調査〆切

②全日中諸調査への協力

- ・教育研究部調査 10月
教育課程編成・実施上の諸課題や新しい時代に求められる学校づくり、全日中教育ビジョンを踏まえた、信頼される学校づくりに向けての調査研究への協力
 - ・生徒指導部調査 10月
当面する生徒指導上の課題や、特別支援教育推進上の課題、さらに部活動や安全教育等、健全育成の推進・充実のための調査研究への協力
 - ・給与対策部調査 12月
教員の勤務実態や定数・給与の改善に関する調査研究への協力
- ※教育研究部・生徒指導部調査は全道18校(小規模校9, 中規模校6, 大規模校3)に依頼
※給与対策部調査は、道教委担当者に依頼

(4)情報部**1 方針**

本会の運営方針と活動の重点を受けて、広報活動のより効果的な業務推進を図り、会員意識の高揚並びに組織活動の強化に努める。

- (1) 広く、本会活動の状況や関係機関の情報、各種資料等を提供する。
- (2) 各地区の活動や会員の研究成果、論説等の交流を図るとともに、各界から教育に寄せられる意見も掲載し、会員の職能向上に努める。
- (3) 教育関係機関・団体との情報・資料の交流並びに相互の連携・協調を図り、教育世論の喚起に努める。

2 業務計画**(1) 諸会議の開催****①情報部研修会(定例2回)**

- 第1回情報部研修会 4月28日(木)
本年度の活動方針、業務推進計画の検討・協議
- 第2回情報部研修会 2月10日(金)
本年度の活動反省、来年度への展望等

- ②小中合同学習会 7月15日(金)
ア 道小情報部との研修、交流
イ 号外発行の打ち合わせ

(2) 機関誌等の編集・発行

- ①「道中総会・研修会要項」の編集、発行
令和4年度「第95回総会・研修会要項」の発行
(4月28日(木)発行)
令和5年度「第96回総会・研修会要項」の編集
(令和5年4月発行)

②会報「道中だより」の発行(予定)

- 第378号(6月9日) 第379号(7月7日)
第380号(12月1日) 第381号(1月19日)
※PDF配信とする。

③号外「道小情報・道中だより」の発行

(今年度は道中担当、校正作業は道小・道中が協力して行う)

7月中旬: 北海道文教政策・予算策定に関する要望に対する回答

11月中旬: 8月5日(金)開催予定の道教委との意見交換会・各課懇談会の内容

④会誌「全道中」第92号の編集、発行(3月発行予定)

今日的課題をテーマとした特集記事を予定。

(3) 道中ホームページ(HP)の充実について

本会活動の状況や各地区発行機関誌、会誌等の交流、関係機関の情報、各種資料等の提供の場としての運用とタイムリーな更新

(4) 全日中機関紙「中学校」の編集協力

特集「学校経営」、シリーズ「経営」、「校長会だより」、「主張」等に関し、全日中編集部協力委員として、執筆割当を計画・依頼

(5) その他

事業、活動の記録

『令和の札幌市中学校長会』構築元年
～「ビジョン」と「ミッション」～

札幌市・北都中 小川 厚 志

札幌市中学校長会は、24人の新しい仲間を迎え、富川浩会長の下、今年度の活動をスタートした。

札幌市は、目指す人間像を「自立した札幌人」とし、札幌市学校教育の重点として、子供一人一人が「自分が大切にされている」と実感する「人間尊重の教育」を基盤としている。

これらを踏まえ今年度は、予測困難な時代に対応する「令和の札幌市中学校長会」の構築元年とし、「組織、研究内容・方法の見直し、女性管理職拡大」等の課題解決を図ることが活動方針である。これまで同様に「情報共有と協働支援」を図りながら、札幌市のビジョンからICTの活用や小中一貫した教育の実施、校長会の在り方など、明確なミッションを設定し研さんと職能の向上を目指すことにしている。

【活動の重点】

- 1 校長会の組織・運営の強化と研修の充実
- 2 学校経営の改善と充実
- 3 学校経営の条件整備と教職員の待遇改善
- 4 教育関係機関や諸団体との連携強化

【研究活動】

第73回全日本中学校長会研究協議会北海道（札幌）大会へ向けた研究・活動の1年とし、次年度以降の新しい研究内容・体制の構築を図る。

活動のキーワードに『展望、信頼、つながる』を据えて！後志小中学校長会

後志・岩内第一中 柴田 真 琴

令和4年度の後志小中学校長会は新たにフレッシュな8人の採用校長を含め、小学校長39人、中学校長24人、計63人で構成している。

本会の設置目的は会員相互の『職能向上』と『小中学校教育の振興』を図ることである。今年度は新会長のもと、次の運営方針ならびに活動の重点を掲げ「展望・信頼・つながる」を活動のキーワードに据え、一人一人の会員の力を結集して推進する。

【運営方針】

- 1 国や自治体における教育関連の動向を注視し、迅速な情報収集と情報共有に努める。
- 2 地域や会員が抱える課題に向き合い、その解決に寄与する取組に努める。
- 3 関係教育機関、関係団体との積極的な調整に努める。

【活動の重点】

- 1 生きる力を育む[社会に開かれた教育課程]の実践
- 2 教頭・主幹教諭・ミドルリーダーの育成
- 3 教職員の法令遵守、服務規律の厳正な保持
- 4 総合的な経営力向上の取組
- 5 関係機関への管内課題の解決に向けた適切な発信

地 区 だ よ り

基本姿勢「自立と『継ががり』」の下、小樽
の未来を託すことのできる人材の育成を！

小樽市・銭函中 田中 孝 二

小樽市中学校長会は、市の方針「知・徳・体のバランスのとれた人材の育成」を目指し、研究と実践を積み重ねている。

今年度は、これまで同様、横のつながり（繋がり）を大切にしつつ、次代へのつながり（「継続」を強く意図した「継ががり」と表記）を基本姿勢とし、以下の取組を推進していく。

- 1 学校運営組織の改善・充実
 - ・ 指導的立場としての教務主任の機能化
- 2 小中一貫教育
 - ① 分掌内への小中一貫教育担当の位置付け
 - ② 中学校区内での担当者会議・全教職員による部会の実施
- 3 人材育成
 - ① 「主幹会」のバックアップと主幹教諭間の定期的な交流
 - ② 教頭・主幹教諭等による他校体験・見学の実施
- 4 業務改善
 - ・ 校内組織の機能化をベースにした業務の見直しと推進

信頼される中学校教育の創造を目指し、「知恵を結集し、さらに、前へ」

旭川市・明星中 福澤 秀

旭川市中学校長会は、工藤 亘会長のもと、新会員4人（新採用2人）を迎え、27人の会員で新年度の活動を開始した。「知恵を結集し、さらに、前へ」を基本姿勢と定め、旭川市教育大綱の基本方針「主体的に学び力強く未来を拓く人づくり」の具現化のため、校長会組織の一層の活性化を図っている。教育改革の動向を見極めながら、会員相互の真摯な研さんと連携を図り、次のような運営方針を掲げ、中学校教育の充実・発展に努めている。

【運営方針】

- 1 教育改革の内容等を適切に見極め、具体策をもって、主体的にその取組を進める。
- 2 旭川市民の願いや期待に応え、信頼される中学校教育を目指し会務の推進に努める。
- 3 旭川市教育委員会を始め、関係機関等と緊密に連携し、教育諸課題への適切な対応に努める。
- 4 中学校長としての使命を自覚し、時代の進展に対応する中学校教育の在り方を見極めるとともに、その充実・発展に努める。
- 5 校長としての資質向上を図る研修に努める。
- 6 会員相互の意思疎通を図り、活動の活性化・効率化に努める。

充実した留萌教育を創り上げていく覚悟をもって

留萌・初山別中 嶋 本 佳世子

留萌管内小中学校長会は、藤田智哉会長（留萌中）の下、3人の採用校長を迎え、8市町村・会員27人でスタートを切った。（小15、小中2、中10）

【運営の方針】

- 1 校長の使命と責任を自覚し、自らの見識を高める研修の充実と情報の共有を図る。
- 2 会員相互の連携を密にして信頼関係を深め、組織の強化と活動の充実を図る。
- 3 物事や事象の変化に対し、柔軟な組織を確立し、先を見通した最善の対応を図る。
- 4 教育関係機関・団体及び地域社会との連携を強化し、諸問題の解決を図る。

上記の運営方針の下「留萌教育のめざす姿」を実現するために、学校が変わること、学校を変えることを躊躇せず、よりよくするための新たな取組にチャレンジする。そして、考え、議論し、結論を出して実行する組織を確立し、校長会の活性化と校長一人一人の職能向上を図ることによって、管内教育の充実・発展に向けてこれまで以上に寄与していく。志を高く掲げ、充実した留萌の教育を創り上げていく覚悟をもって臨みたい。

檜山の教育 充実・発展のために～たくましい児童生徒の育成に向けた検証改善～

檜山・北檜山中 酒 井 豊 志

檜山校長会は、小学校17人、中学校10人合計27人で組織されている。「ふるさと檜山に誇りを持ち、自己実現に向けて未来を切り拓く児童生徒」を育む学校経営の在り方を究明し、保護者や地域住民の負託と信頼に応えるため、自らの職責を自覚し、リーダーシップを発揮し、教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化、活力ある学校づくりの推進を目指している。

【活動の重点】

- 1 組織マネジメントを活かした活力ある学校経営の推進（重点）
- 2 「生きる力」を育む適切な教育課程の編成・実施・評価・改善
- 3 時代の変化に即した生徒指導や特別支援教育の組織的推進
- 4 教職員の資質・能力の総合的な向上
- 5 服務規律の厳正な保持
- 6 組織活動の活性化と充実（重点）
- 7 ミドルリーダーならびに管理職候補者の育成
- 8 防災教育と健康安全教育の充実
- 9 学校における「働き方改革」の推進（重点）

地 区 だ よ り

未来を切り開き 豊かな社会を創り出す日本人を育成する渡島小中学校教育

渡島・森中 石 川 宏 司

渡島小中学校長会は、池田克己新会長（知内町立知内小学校）のもと、10人の採用校長と3人の転入校長、計13人を迎え、57人で活動を開始した。（小37校、中18校、小中併置1校、義務教育1校）

【活動の重点】

- 1 新しい時代を担う渡島小中学校の学校経営の充実に努める。
- 2 時代の動向に合わせて迅速な情報交流や協働の研修を進め校長としての識見や指導力向上を図る。
- 3 教育の動向を踏まえ、教育関係機関・団体及び地域との連携を強化し諸課題の解決に努める。
- 4 渡島の教育全体の動向を各々の学校に生かすために調査と情報発信に努める。
- 5 次世代の渡島の教育を支える人材育成を図り、後継者育成を進める。
- 6 教育環境・諸条件の整備と福利厚生充実。
- 7 渡島小中学校長会会員の連携をより一層図り、組織の強化と充実に努める。
- 8 令和5年度北海道小学校教育研究渡島・北斗大会へ向け準備を進める。

【運営方針】

- 1 「ニューノーマル」における学校教育を見据えた教育活動の推進
- 2 働き方改革の推進
- 3 後継者育成への取組継続
- 4 オール渡島として会務推進

“ふるさと空知を愛する人を”～空知の子どもたちの健やかな成長を～

空知・北竜中 小 玉 剛

空知校長会は、菅原伸介会長のもと、新会員16人を迎え、24市町・94人の会員で令和4年度の活動をスタートさせた。

統廃合による学校数の減少、学力・体力の低迷など、地域課題の解決を図り、ここ空知を心のより所として世界を見つめ、社会の形成に向けて挑戦する人材を育成する。そのため、教職員一人一人の資質能力や意欲を高め、地域や関係団体等の様々な人たちとの協働の下、「魅力ある学校づくり」に全力で努めていく。

【活動方針】

- 1 空知の校長としての使命を自覚し、常に研さんに励み、学校の自主性・自律性を発揮して、学校経営の充実・発展に努める。
- 2 校長相互の協力や信頼関係を一層深めるとともに組織の在り方を再検討する中で、組織運営の効率や業務削減、諸問題の解決に努める。
- 3 空知教育局や各市町教育委員会及び道小・道中などの教育関係機関・団体と緊密に連携し、教育課題の解決にあたり、地域・保護者から信頼される学校づくりに努める。

管内教育課題の解明・解消と職能向上を目指し、積極的に提言、発信、行動する日高地区校長会

日高・静内第三中 小嶋 範彦

日高地区校長会は品田和輝会長のもと10人の新会員を迎え、41人の小中学校長で構成されている。

校長会員相互が積極的に情報を交流、発信し課題を共有する中で、建設的な議論を交わし、日高管内各学校の学校運営がより組織的になり、若い人材がよりよく育つ環境の実現を目指し、積極的な活動を展開する。喫緊の課題である学力向上については、特別委員会を立ち上げ重点的に取り組んでいく方針である。またコロナ禍において、これまで以上に道小・道中や管内教育関係機関、団体との関係を重視し、情報発信、収集を双方向に行い、課題を共有していかねばならないと考えている。

【活動の重点】

- 1 with コロナ時代を踏まえた信頼と秩序に基づく学校経営の推進
- 2 社会に開かれた教育課程の編成・実施・評価・改善
- 3 教職員の資質・能力の向上と後継者育成
- 4 研修活動による職能向上と組織体制の強化

「磨き鍛え伸ばす校長会」

十勝・上美生中 中村 浩幸

十勝小・中校長会は、管内18町村の校長91人で組織されている。本会は、「子供の成長の歴史に責任を負う」という校長の教育実践指標（昭和55年制定）を掲げ、会員相互の研さんに励み、公教育の役割と使命の遂行に努めてきた。今年度は4月11日に総会を開催し、長江会長が掲げた「磨き鍛え伸ばす校長会」のテーマの下、活動がスタートした。本会員は、これまで諸先輩が築き上げてきた「十勝ならではの教育」を継承し、教育者としての情熱と信念、経営者としての展望をもって学校経営に当たる。

【活動の重点】（要約）

- 1 信頼に基づく創意工夫に満ちた活力ある学校経営に努める
- 2 協働体制の確立と信頼関係の深化を図り、組織体としての機能の充実に努める
- 3 研修を深め、主体性を確立し、教育上の諸問題の解決に努める
- 4 地域社会・関係機関との連携を強化し、教育諸条件の整備に努める
- 5 待遇改善・福利厚生等の向上を図るため、情報交換と要望活動の充実に努める

地区だより

子どものために最善を尽くす校長会

釧路・富原中 水野 秀哲

釧路校長会は9人の採用校長を迎えた。釧路管内の小学校校長22人、中学校長16人、小中併置校長4人、義務教育学校校長2人の総勢44人で構成されている。今年度、佐藤毅会長を中心に、「5項目の方針」を確認し活動を開始した。

【運営方針】（要約）

- 1 経営ビジョンを明確に示し、その職責の重さを自覚して「釧路の風土に根ざす学校づくり」の経営感覚を磨き、実践力を高めるために職能の向上に努め、諸課題を解決する。
- 2 地域や保護者の信頼や期待に応え、「子どもたちや教職員が明るく、楽しく学べる環境づくり」を志向する学校経営に努める。
- 3 新学習指導要領の趣旨に基づき児童生徒の「生きる力」を育む教育課程を編成・実施・評価し、改善を図りながら自校の課題解決にあたる。
- 4 教育関係団体、特に町村教育委員会と町村校長会との連携協力を密にし、教育の動向や情報の共有と今日的な課題への対応・解決に向け、迅速に行動するよう努める。
- 5 円滑な学校経営を目指し、釧路校長会綱領の趣旨に基づき、会員個々の意識を高めるとともに相互の絆をより一層深められるよう努める。

未来を拓く「チーム根室」を目指して

根室・光洋中 齋藤 征志

根室管内小中学校校長会は、新採用校長5人を迎え、「継承と発展」を合い言葉に、管内教育を推進していく。今年度は、全40校の校長がそれぞれ「チーム根室」を強く意識し「根室の風土を生かし、心豊かにたくましく生きてはたらく力をはぐくむ社会に開かれた学校教育の創造」を目指して活動する。

【活動方針】（要約）

- 1 教育をめぐる諸情勢を的確に捉え、校長の抱える問題を組織として共有し解決に努める。
- 2 信頼される公教育の確立を図り、関係機関と連携しながら適切な対応に努める。
- 3 校長の学校経営力の向上を図り、地域に開かれた学校経営の改善・充実に努める。

【活動の重点】

- 1 家庭や地域社会に信頼される学校づくりの推進
- 2 社会に開かれた教育課程の実現を図る教育課程の編成・実施と評価・改善
- 3 研修活動の推進
- 4 教育諸条件の整備・充実
- 5 教職員の待遇改善の推進
- 6 校長会の業務改善と組織強化の推進

論 文

学力向上の取組

「オールオホーツクで学力向上を」

美幌町立北中学校 竹内 昭二

1 はじめに

オホーツク管内の学力向上の取組である「オールオホーツクで学力向上を」も6年目を迎える。

①学習規律、②授業改善、③家庭との連携、④チャレンジテストの活用の4点を柱にロードマップを作成し、Ⅰ期(4～8月)の評価をⅡ期の取組に、Ⅱ期(9～1月)の評価を次年度の取組に反映させ、学校全体で学力向上に取り組んでいる。

本校では、この「オールオホーツクで学力向上を」の取組を柱に、教職員の参画意識を高めること、学校課題である学力向上や授業改善、家庭学習習慣を育成することを目標に教育活動を進めている。

2 本校での取組

(1) 教職員の学校運営参画意識を高める

本校では、ロードマップの作成を研修部3人が担当している。

以前は、教職員の参画意識を高めるために、学習規律は教務部、授業改善は研修部、家庭学習は学年部と、多数の教職員が関わる形で進めていたが、取組に一貫性が見られないこと、協議する時間がないため取組が形骸化することなどの問題が見られ、現在は、研修部が中心となり取組を進めている。

学力向上につながる一貫性のあるロードマップが示され、取組に対する教職員の理解が進んでいる。

(2) 学習規律

昨年度、教育局主催研修会において、町内中学校区でのロードマップの交流が行われた。校区の小学校から「話を聞く活動」を目標に設定し取組を進め成果につながったとの発表があり、本校も同じ課題が見られることから、今年度は連携の意味も含めて「話を聞く活動」を目標に設定し取組を進めている。

中学1年生にとっては、小学校でも取り組んできた目標であり、取組がスムーズに進んでいる。

今後も、校区の小学校と連携し、目標や課題の設定を進めていきたい。

(3) 授業改善

校内研修の柱として授業改善に取り組んでいる。

授業改善は進んでいるが、教員により取組に個人差が大きいという課題が見られた。研修部と協議し、3年間で授業改善につながる基本的内容の研修

を進め、授業に対する基礎的な理解を促すことを目的に校内研修を進めることにした。

- ・一年次：課題とまとめのある授業の実践
- ・二年次：深い学びのある授業の実践
- ・三年次(本年)：単元計画と評価の充実

(4) 家庭との連携(家庭学習の推進)

全国学力学習状況調査から、家庭学習の習慣が本校の課題であることが明確になった。

また、家庭学習の習慣は、本校だけでなく美幌町全体の課題であることから、昨年度から、町内全小中学校で統一した取組を進めている。

3年前、全道中学校校長会研究大会で紹介された新潟県燕市の取組を参考に進めている。

具体的には、下記のとおりである。

- ①家庭学習のノートを1人1冊用意する
 - ②帰りの会で、今日の授業を振り返り、家庭学習ノートの上段に学習計画を立てる(例 20:00～数学)
 - ③朝の会で、ノートを担任に提出する
 - ④担任が点検して返却する(コメントは書かない)
- 取組を継続する粘り強さと、自分で計画・工夫して学習を進める自己調整力の育成を目指している。

(5) チャレンジテストの活用

定期テストの際、チャレンジテストを参考に生徒の思考力・判断力・表現力を問う記述式問題を、必ず1問は出題する取組を進めている。

出題するためには、授業の中で思考力・判断力・表現力を育成する学習や、根拠を示しながら自分の考えを表現する学習を行う必要があり、授業改善にもつながっている。

3 終わりに

「オールオホーツクで学力向上を」の取組も6年目を迎え、ロードマップを柱に教育活動を進め、検証する目的や意義が教職員に浸透してきている。

また、ロードマップを作成し(課題)、取組の成果を実感し(まとめ)、次の課題を見付け出す(振り返り)活動が、教職員の主体性にもつながっている。

今後も、取組を検証・改善しながら、学校課題の解決に尽力していきたい。



学生時代から本屋で実際に本や雑誌を手にとり、感性にヒットするものを買うのが楽しみだった。教員になってからも、早く授業の上手な教員になろうと、教育誌は月に4〜5冊程度は購読し、また休みの日ごとに、大きな本屋に教育書などを買いに出かけるのが楽しみだった。

管理職になってからは、本の内容が学校経営にシフトしていったが、以前読んでいた教育誌が休刊となっていることを知った。年々多様化していく読者のニーズや読書スタイルの変遷等への対応らしい。

私も、今は電子書籍やネットショッピングの普及等により、ネットで本を買うことが多くなり、趣味の本などは安価な電子書籍を活用している。

読者のニーズや読書スタイルの変遷ということでは、テレビやインターネットなどで十分情報が得られるからと、新聞を購読しない家庭も増えている。日本新聞協会のデータによると、2011年の1世帯あたりの部数は0.90、2021年では0.57となっている。この中にはスポーツ紙も含んでいるので、一般紙は半数近くの家庭で購読していないようだ。

なお、年代別購読率を見ると、30代は約30%しか新聞を

デジタル化雑感

名寄市立名寄東中学校 櫻庭 一也

購読していない一方で、60代以上は約80%が新聞を購読しているらしい。

私もデジタル化された情報を活用している。前述の新聞協会のデータもネットで調べたものだし、教育情報や実践などはいち早く手に入るので、学校改善などにありがたく活用させていただいているし、ネットニュースも活用する。

一方で、じっくり考えたいときには、書籍や新聞などを手にすることが多い。デジタルでも同じことが可能だが、本の余白に感じたことや考えたことを書き込んだり、新聞の気になる記事を切り抜いたり、マーカーを引いたり、手触りも含めて、アナログ作業のほうが頭に入りやすい。

しかし、デジタル化がこのコロナ禍で加速しており、「デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議」の第一次報告では、2024年度からのデジタル教科書の本格導入検討が進められており、ちょっと気を抜くと、すぐに置き去りにされるような状況に、四苦八苦している。

教員生活最後の年となるが、置いてかれる（老いて枯れる）ことのないよう、最後まで頑張りたい。



教員を目指した理由

釧路市立大楽毛中学校 青木 栄

2年続けてやる気あふれる新採用教員を配置していただいた。その教員の志望理由が本当に素晴らしく、教員を目指す熱い思いが感じ取れた。

37年前、学級担任をもち、経験のない部活動を指導し、19時過ぎから翌日の学級・教科指導の準備を職員室で始める。“時シラズ”というあだ名がついた初任時代、深夜徘徊・問題行動の途切れぬ生徒の指導や他校とのトラブル対応にも振り回される毎日だった。

服装・頭髪指導で相対するエネルギー豊富な生徒たちは少しずつ精気が薄れ、ゲームの世界に時間を費やす生徒が年々増えていった。PHS〜携帯電話で交友・行動範囲が広がり、スマートフォン・タブレットが普通に手元にある今、インターネットとつながっている生活が当たり前、私たちの見えない所で様々な問題が起きているように感じられる。

週五日制の導入から土・日の大会が増え、部活動も含め、学校・教師への要望や期待が量的にも質的にも膨らむにいいだけ膨らんだ。いつからか私たちの仕事は、ブラック企業とまで言われるようになり、若者から敬遠される職業の一つになってしまった。

しかし、2019年答申で、我々の働き方が見直され、本来の教師が担う業務が明確化・適正化されるようになってきた。多くのことを差し戻せず、変えなければならぬことも変えられず、積み重なった多くのことが今、「働き方改革」の下、変わろうとしている。

分からないことが分かったときの子供の顔、できないことができた瞬間の目、喜びにあふれる子供たちの輝く笑顔。共に学び、共に成長した純粋な心、そして、卒業していく生徒を送り出すときに味わう担任としての喜びは一生の宝である。

大変なことも確かにあるが、昔も今も変わらぬ教員の魅力も間違いなくある。「教員を目指した頃の思い」「実際に教員を経験し味わったたくさんの喜び」「教員の素晴らしさ」を子供たちに伝えたい。

10年後、初任者として私たちの現場に仲間入りしてくる新採用教員は、今、私たちの目の前にいる13・14・15歳の子供たちである。

生徒と楽しく元気に向き合い、いつも輝いている我々の姿を子供たちの目に映し出したい。今一度、思い出したい。なぜ、自分は教員を目指したのか。

文芸

一人前の人として

北広島市立広葉中学校 山口 歩

「いつまでも子供扱いすんなよなあ」と一人前ぶって、さも正論であるがごとく屁理屈を言っていた中学生時代の自分がいた。時には「大人なんだから」「子供のくせに」と、大人の都合のいいように自分たちへの扱いが変わることに、無性に腹が立った。そのこと自体には今も間違いはなかったと思っている。ただ、

当時は自分の主張の正しさだけしか見えておらず、年齢を重ね、多角的・客的に振り返ってみることができるようになると「オレのせいじゃないし」と、自分こそ都合よく大人と子供を使い分けていたことに気づかされ恥ずかしくなる。そんな自分が中学校教師になって30年以上が経過する。自分の中学生時代の思いもあって、新卒の頃から生徒には一人前の人として接していこう、と心に決めていた。基本的には今もそこは変わってはいない。中学校卒業後、大多数は高校に進学するが、それは自由選択であり、社会に飛び出す第一歩であることに間違いはない。そのため、社会で通用する人に育てて送り出すことが、義務教育を終える中学校の責務であると考えているからである。ただ、若いころはその思いが真っ直ぐすぎて、つい先日まで小学生だった中学1年

生にとっては、イコール厳しさや怖さが先行してしまい、意図が伝わらないこともあったかと反省している。しかしながら、3年間ともに過ごした中学3年生、心身ともに大きく成長し、頼もしさすら感じさせる。こちらからとやかく言うまでもなく、自立した生活が確立するようになったときには、その役目を少しでも果たせたかな、と安堵する自分がいる。

今、時代は令和に入り、社会も生活環境も大きく変わってきた。その中で育ってきた子供たちも、根本は昔も今も変わらないと思われる。しかし、入社試験や入社式に保護者が同伴するケースが見られるなど、その変化も敏感に感じとらなければならない。親や教師をはじめ大人への依存傾向が強まってきた一面。情報端末の普及により、脆弱な知識の中で重大な判断をワンクリックで簡単にできてしまう一面。コミュニケーション不足による希薄な人間関係という一面。これからの社会でたくましく生きていける人を育てる環境として、より最適な学校であるよう、職員・保護者・地域とともに思いを共有して、学校づくりを進めていきたい。

道中事務局日誌

(4月1日から6月4日まで)

Table with columns for date, day, business content, time, and location. It lists various administrative activities and meetings from April to June.

発行者 会長 野崎 均 事務局 札幌市中央区北1条西3丁目

北海道中学校長会

敷島プラザビル4F

TEL011-251-1344 FAX011-251-1302

編集者 道中情報部

http://www.dochu-kochokai.jp/